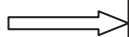


不安感を和らげるための支援

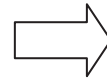
〔具体的支援〕

〔児童の姿〕

午睡になると不安になり大声で泣いたり、布団の周りには絶対に近寄ろうとしない。



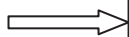
- ・室内状況が変わる午睡では、事前にスケジュールで伝える、視覚支援で室内の変化（カーテンが閉まるなど）を伝える。
- ・仕切りをしたり寝る場所を端にするなど工夫する。（室内の密閉状態に不安があるときは戸口付近にするなど、不安の内容について対処する）



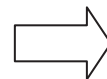
〔具体的な状況〕

- ・寝ている友だちの様子が気になり、同じ場所で過ごすようになる。
- ・布団の場所が固定されたことで午睡時その場所へは行くようになった。気に入ったもの（タオル、人形など）と一緒に布団への抵抗が薄れ寝るようになった。

保育所のトイレに行くことを嫌がる。（家庭以外のトイレで排泄をするのを嫌がる）



- ・トイレを嫌がる原因（便器の感触、室内の様子、水の音、下着を脱ぐなど）を探り対処の方法を考え伝えることで、安心感を持たせる。
- ・こだわりを生かして、特定の便器を決めたりお気に入りの物を置いたりする。
- ・失敗した時は素早く始末し、保育士との信頼関係をつくる。



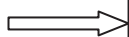
- ・不安な気持ちを言葉で確認することで保育士に対して信頼関係ができ、少しずつトイレに対する拒否感は和らいだ。こだわりを生かすことで安心感をもてるようになった。



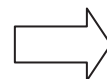
POINT

状況変化に弱いこどもや、不安感が強いこどもにとって、午睡やトイレに行くことは不安要素が多いことを理解し、配慮することが必要です。

初めてのこと、新しいことになかなか取り組めない。取り組むのに時間がかかる。



- ・事前に視覚支援やシュミレーションで内容を知らせたり、やって見せるなど、具体的にわかるように伝える。
- ・納得し理解して取り組めるよう援助し、自信や達成感を持たせる。
- ・目標や終わりがわかるよう目標カードを作成する。⑦



- ・保育士や友だちのしている様子を見て興味をもったり、一緒にしてくれると言うことで不安感を和らげて参加するようになる。『大丈夫』と言うことを発信し心理的サポートをする。
- ・繰り返し活動することで自信がつき、「自分で（する）」と言って取り組むようになる。

健康診断や災害訓練で泣いたり不安定になる。



- ・不安な気持ちにはそばについて抱きしめたり、音に対する過敏さに対処する。



POINT

苦手な活動は自信のある活動と組み合わせ、次に楽しみがあるという体験をし、見通しをもって参加できるようにします。目標の設定は無理なく、少し頑張れば到達できるというところに設定し達成感や満足感を積み重ねていきます。